

「今」を大切に

読谷中学校 一年四組 比嘉茉莉

あなたは、「今」を大切にしていますか。私はまだ二十年も生きてはいないけれど、「今」の大切さと重さは分かります。なぜなら毎年、慰霊の日がある六月がくるたびに、平和な「今」を生きれることは当たり前では無いと学ぶからです。私はこれまで、戦争のこゝとを伝える展示を見たり、戦争の絵本を読んだりして、「戦争について学ぶ、そのために」戦争は怖いこと、「してはいけないというこゝとを教わりました。だから、私は「ちゃんとして」を大切に生きていこうと思ひ、毎日を過ごしていたつもりでした。

中学生になり、今年も平和について考える六月がやってきたとき、これまで気がつかないかゝたことに初めて気がつきました。戦争に動員された学徒の年齢が、「今の私と同じ年頃だった」しかも、「学生だった」ということ。そして、戦争は兵士だけではなく、学校生活

女普通に過ごしていた学生からも「今」を奪
ったのだという事です。私は、大人に守ら
てもらいたい、好きなお菓子を食べ、フカフカの
布団で気持ちよく寝ることができます。学校
に行き、学ぶことも保証されています。それ
が私の「今を生きる」なのです。十三歳は、
まだ「ほんの」といわれるくらいの年齢です。
それなのに、まだ子どもに向かって、「国の
ために我慢しろ」とか、「命をかけて戦え」と
と大人が本気で言っていたなんて、あまりに
むじみすぎます。同じ年なのに、今私が「楽し
い」と感じていることを許されな
い。なにか「た」なんて信じられません。そう思うと、
何か心に「ず」しりくるものがありました。戦
争中に「今」を生きることのできなかつた戦
争を、もう二度と繰り返してはいけません。
自分と同じ年齢の子どもをも巻き込んだ戦争
の悲惨に改めて気がつきました。これまでの
私は、「戦争」でなくさんの人がたくなつたん
だ。「戦争」で二度としてはいけないことな

んだ」と、表面的な言葉で戦争の気持ちを片
付けてしまっていたのかも少し水ません。本当
に「今」を大切に生きていくためには、戦争
についてもっと知り、平和を継承していかな
ければならないと思いました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため
の休校中、外出を制限されました。少し不自
由な生活でした。戦争を体験した身近な人
にインタビューをしようという宿題が出た
こともあり、戦争について考える時間をもつ

ことができました。戦争について、身近な人
にインタビューをしたのは初めてのことでし
た。私は、母から曾祖父の戦争体験について
の話を開きました。母の話は、実際には体験
していませんので、くわしい話はあまり聞けま
せんでした。それでも、母の話は、涙が出そ
うになるくらい辛く、苦しい内容でした。曾
祖父は戦争で亡くなってしまったそうです。
戦争の犠牲者の中には、私の先祖も含まれて
いる。あの戦争を実際に体験し、辛い思いを

した人がこんな身近な人にいたんだ。と知り、戦争は人ごとではないと実感しました。

戦争のときも私たちが生きている現在も、どちらも同じ時間を与えられていたはず。青春を築き上げたとしても、それをすることができなかった時代は終わりました。そして、私たちに、戦争を二度とおこしてはいけません。という大切なことを残してくれました。だからこそ、平和な時代に生きていることに感謝しなければなりません。今年も、戦後七十六年です。たった七十六年しかたっていないのに、戦争について深く考えなかつたり、今、私たちが平和な時代に生きていることを、当たり前前だと感じる人も増えてきているように感じます。

私たちが、平和な時代に生まれたからこそ、戦争のことについて学ばないといけません。何のために戦争を学んでいるのかを考え、私の母が私に戦争のことを語り継いでくれたように、今度は私たちが戦争を語り継ぐ番だと

思います。そして、私たちは、全力で「今」
を生きていかなければなりません。だから、
私はこれから、このこと胸に刻んで生きてい
きます。